

『ホームアジア』一九六七年六月（ホームアジア）

日本人の後進性

矢口 新

日本人の後進性などという、漸く先進国の仲間入りをしたといばっている日本人からはお叱りを受けるかも知れない。確かに経済的成長とこの点からみると、日本は先進国の中でも上位に位する。もう十年もすると日本は世界第一位になるかも知れないなどとおだてられると、本当にそうかと自信をもつ人も多い。

しかしその経済の世界でも、日本人の過当競争のすさまじさなどは、先進国の人々にはどうも理解のできないことで、腹の底では日本人はなんて馬鹿な奴だなどと赤い舌をペロリと出す先進国民も多いのである。最近日本人のことを、経済動物（エコノミック・アニマル）などという先進国民がふえたが、目先の利害だけにとらわれて、日本人どうしがお互にいやらしい競争をする有様をみると、そういわれても仕方のないような気がする。アジアのユダヤ人というような言い方をされる時もある。経済成長ばかりにとらわれて何か大事なものを忘れているのではないか。

たしか半年位前だと思うが、イギリスのエコノミスト誌が、日本人の心の土壌は腐っていて、そういう所に民主主義が育つかどうか疑問であると評していたが、どうも私もいささか心配な点がある。外国人からそういう評価をされて、そういう人間だという扱いをされて、それでも経済成長させればよいとうそぶいて居れるかどうか。あいつはいつも本当のことを言う奴だ、正しいことを言う奴だという評価のかわりに、あいつはちよっ

ともうけさせればどうにでもなる奴だという評価が、国際的な通り相場になっても、平然として居れるかどうか。

しかしその経済成長だつて、これから先はいろいろ問題があるといわれている。たとえば、これまでは後進国だったから、外国も技術を買ってくれたが、先進国の仲間入りをするとうそは行かない。そうなると、これまで猿まねでやって来たようには行かないが、自力で技術を開発するには、底力が無い。研究や開発の分野にこれまで力を入れて来ていないので自分の技術を持つようになるには、相当骨が折れるだろうと云われている。しかしそういう目前の利益にならないことには、この経済動物は力を入れようとしていない。逆になんとかがごまかせないかと考える方が得意である。こういう状態だと、近いうちに大きい壁にぶつかりそうな気がする。

経済の世界でも、最後に勝利を占めるのは本物であり、真実のものであるが、そういうものはなかなか一朝にはでき上らない。長い間の営々たる努力が必要である。経済動物はそういうものが大切だということに気がつかないのである。むしろ本物の経済動物だったら、そのことに気がつくであろう。

私達が留学生を世話してみて、表むきは日本へ来た留学生が勉強して国へかえって、それぞれの国に役立っているように見えるけれども、内実をよくみると、まだまだ本当に、アジアの留学生を国として立派に世話してやっているとはいえないようなことが多くある。金を与えて勉強させてやっているから十分だ位に考えているのではないだろうか。しかし彼等が本当に勉強するには、日常生活についても、学校の生活についても考えてやらなくてはならぬことが多くあるのである。日本人全体が外国人に対して本当の接触の仕方をしなくてはならぬことが多くあるのである。そういうことを真剣に考える人が多くならないと、日本人は本当にすぐれた民族だという評価を得られないように思う。その反対になる恐れがある。

(ホームアジア会長)